

栗原 NN 通信

2022年9月7日発行 第14号

今年春に引き渡した農地において作付けが終わりました！

北部地方振興事務所栗原地域事務所農業農村整備部では昨年度に着手した区画整理工事114.3ha、暗渠排水工事53.6haの農地について、今年の春に地元農家への引き渡し完了し、整備後の農地で作付けが行われました。

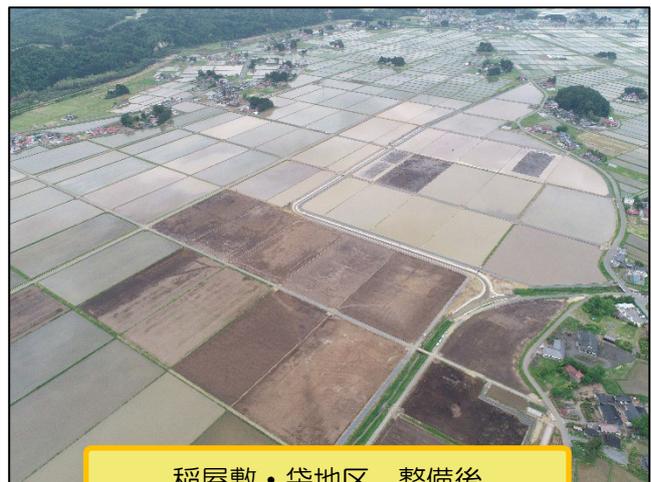
今後も引き続き、地元農家や関係機関との調整を綿密に行いながら、農業農村整備事業に取り組んでいきます。



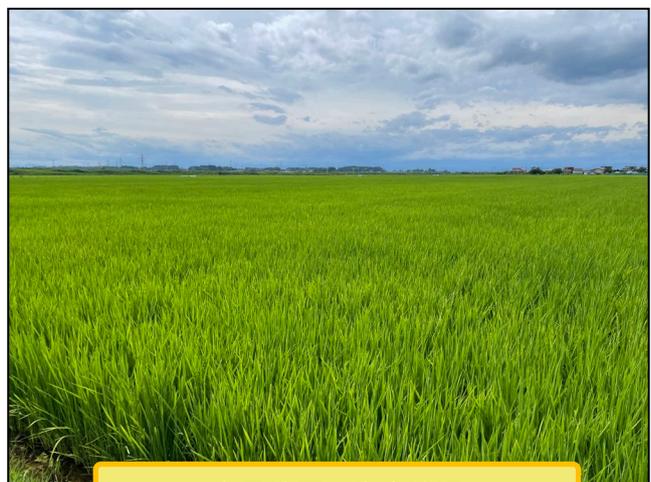
稲屋敷・袋地区 整備前

【表】R4年度春農地引き渡し面積

| 地区名 | | 引き渡し面積 (ha) |
|--------|-------|-------------|
| 区画整理工事 | 大目 | 30.3 |
| | 東田 | 23.2 |
| | 稲屋敷・袋 | 36.5 |
| | 津久毛 | 18.3 |
| | 瀬峰 | 6.0 |
| | 計 | 114.3 |
| 暗渠排水 | 稲屋敷・袋 | 20.7 |
| | 藤田 | 32.9 |
| | 計 | 53.6 |



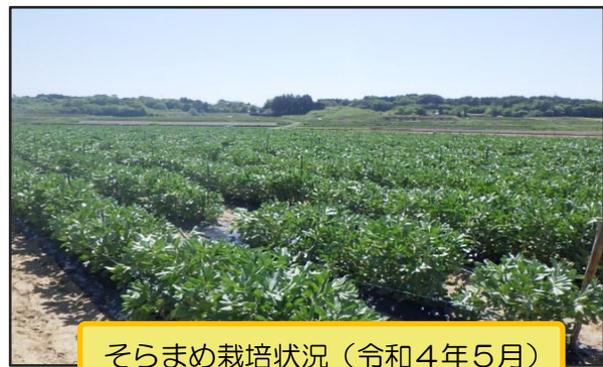
稲屋敷・袋地区 整備後



大目地区 生育状況

上沼地区ほ場においてそらまめが収穫されました！

農地整備事業「上沼地区」で整備されたほ場において、そらまめが栽培され、6月に収穫が行われました。上沼地区ではそらまめを A=30a ほど作付けし、湿害等に見舞われず無事に収穫することができました。



そらまめは高収益作物です。高収益作物とは、主食用米(水稻)と比べて作付け面積あたりの収益性が高い作物のことを言い、水稻作に比べると作業手間やノウハウが必要となりますが、そのぶん高い収入が見込まれます。

今後高収益作物の導入が各地域で広がることにより、農家所得向上に寄与することが期待されています。

収穫したそらまめは、関東の京浜市場に出荷しています。また、栗原管内の直売所等でも販売されています。

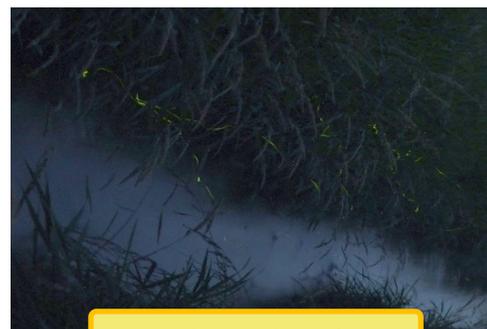


多面的機能支払活動組織「新田地区農村環境保全組合」でほたる観賞会と生き物調査会を開催しました！

令和4年6月27、28日に栗原市志波姫^{やつくぬぎ}八樟地内で、多面的機能支払活動組織「新田地区農村環境保全組合」による「ほたる観賞会」が開催されました。例年ならば「ほたるまつり」として開催し、たくさんの方が参加していましたが、過去2年間は新型コロナウイルスの影響により中止となっていました。今年は、6月24日から7月3日までを「ほたるの観賞期間」として「ほたるまつり」の代替行事が開催されました。27日には日中に大雨が降ったことが影響したのか空を舞う姿を見ることが出来ませんでした。翌日には午後7時30分頃からヘイケボタルが光を放ち始め、時間が経つにつれてたくさんのほたるが空を舞っていました。観賞に来ていた方々は「とてもきれい！」などと言っており楽しんでいました。



ほたる水路



ほたるの舞う姿

令和4年8月7日（日）には生き物調査会が行われました。調査にあたって講師2名を招き、生き物の捕獲や識別を手伝いました。子供たちは、どんなところに生き物がたくさんいるのかなど講師に教わりながらも網と虫かごを手にたくさん捕獲していました。また、前日に水路内に仕掛けていた網を引き上げ、在来種のナマズやアブラハヤ、外来種のアメリカザリガニやウシガエルといった生物を捕獲し、よりたくさんの生き物を子供たちが見て楽しんでいました。



捕獲作業の様子



講師による講話



下敷きと見比べ

捕獲作業後は、お勉強タイム。捕獲した生き物たちの名前や生態について講師の方に解説していただき、子どもたちは講師の話に真剣に耳を傾けていました。また、当日は生き物が描かれている下敷きが全員に配られ、捕獲した生き物と照らし合わせて観察していました。好奇心旺盛な子どもたちは興味津々な様子で生き物たちと触れ合ったりし、「夏休みの楽しい思い出になった」と言っていました。

栗駒ダムに溜まった土砂の撤去工事を行います！

今年から栗駒ダムに溜まった土砂の撤去工事を行います。

栗駒ダムは宮城県の北西部、北上川水系迫川支川三迫川上流に位置し、洪水調整・かんがい用水・発電を目的として、現農政部が県営防災溜池事業により昭和36年度に造成した多目的ダムです。

突然ですが、皆さんは栗駒ダムが無くても問題無いと思いませんか。実はダムが無くなることで、雨を溜めたり、水量の調整が不可能になります。そうすると、大雨が降った際に水位が上昇し、三迫川の水位は現在より1m高くなると予想されています。水位が上昇することで、川は氾濫し、皆さんの身を危険にさらしてしまうこととなります。そんな大雨から皆さんを守るためにダムは存在しています。

しかし、現在の栗駒ダムは土砂が溜まっており、雨を溜める貯水量が減っています。これでは、大雨が降った際に水を溜めることができなくなり、ダムの役割を果たせなくなってしまいます。それを防ぐため、土砂を撤去する工事を行い、貯水量の回復を図り、大雨が降った際もしっかりと対応できるようにします。



栗駒ダム全景

農地整備事業「東田地区」で田んぼダムに取り組んでいます！

田んぼダムってなに？

田んぼダムとは田んぼの貯水機能を利用して、大雨の際に田んぼに一時的に雨水を貯め、河川や排水路へゆっくりと排水し、氾濫等による洪水被害を軽減する取組です。

写真①,②のような堰板を田んぼの落水口に取り付け、河川や排水路への流水を抑制します。

写真①



正面図

写真②



横図

落水口

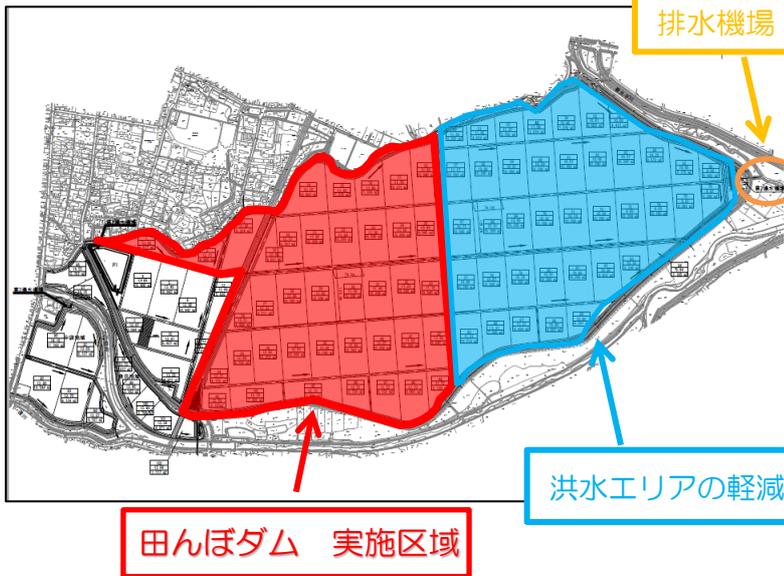


堰板設置前



堰板設置後

東田地区 平面図



栗原市高清水で実施している農地整備事業「東田地区」では、今年度から田んぼダムに取り組んでおり、7月16日に発生した大雨災害の際には、堰板を設置した水田に水が貯まり、3日程かけてゆっくり排水していく様子が確認できました。今後、田んぼダムの取組みが洪水軽減として機能していくか効果を検証していきます。

発行：北部地方振興事務所栗原地域事務所農業農村整備部

〒987-2251 宮城県栗原市築館藤木 5-1

TEL：0228-22-2111

FAX：0228-22-9284

H P： <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khsgsin-ns/>

